

肢蹄改善ニュースレター

No.1

根室農業改良普及センター・根室生産連・農協・根室牛削蹄師会

● 蹄の改善は飼料の見直しと蹄浴から

蹄の損耗は季節を問わずみられ、特にフリーストールでは蹄スコアは高い傾向にあります。“4つのポイント”をみてみましょう。

✓ NFCや澱粉が過剰になってませんか？

給与飼料中のNFCや澱粉含量が高すぎるとルーメンアシドーシスになります。この時、エンドキシン毒素が放出され毛細血管の多い蹄に炎症反応が現れます。

定期的に粗飼料分析、飼料給与診断、飼料給与設計を行い、最大で乾物中NFC40%、澱粉26%を超さない飼料給与をしましょう。
(診断、設計はお近くのJA、普及センターまで)



図1. アシドーシス時の蹄への影響

✓ タイミング良く餌押しをしていますか？

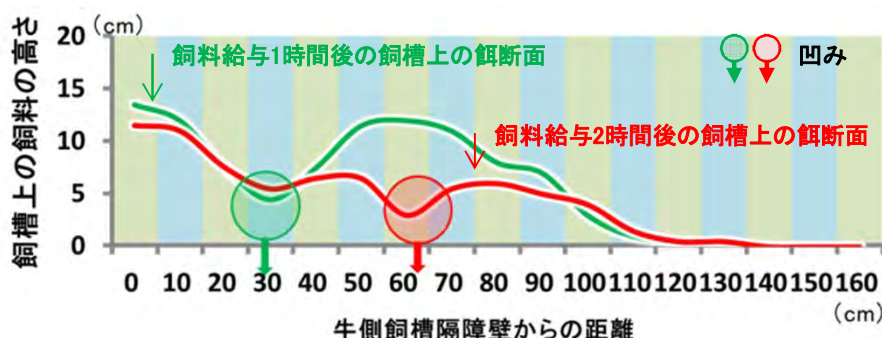


図2. 給与時間別飼槽上での餌の動き

飼料給与してから時間の経過と共に、飼槽上では凹みが現れます。この凹みは穀類など細かな物の選び食いの元になり、ルーメンアシドーシスの原因につながります。凹みができはじめたら餌押しをしましょう。

✓ 粗飼料の切断長は大丈夫？

牧草収穫時の設定切断長は10～13mmを目安にし、定期的に切断長や切断面を確認し収穫にあたりましょう。粗すぎると選び食いの原因になります。



写真1. 牧草の切断長

✓ 蹄を綺麗に保っていますか？

季節を問わずPDDが散見されます。特に凍結が厳しい冬期間は蹄浴がしづらい時期です。この時期に広く感染しますので、寒さの緩んだ時をみはかり蹄浴や蹄へのスプレー消毒を実施しましょう。また、予防のために定期的に蹄浴・蹄へのスプレーを行いましょう。

表1. 蹄浴・蹄スプレーの頻度目安

	下肢に糞がほとんど付着していない	下肢に糞が少し飛び散り付着	蹄から下肢にかけて糞の付着が目立つ	蹄から下肢の上部まで糞が広く固くこびりついている
割合	25%以下	25～50%	51～75%	76%以上
蹄浴・蹄スプレー頻度	必要に応じて	2日/週	5日/週	7日/週

(米国Zinpro社技術資料より)

痛すぎる肢蹄 それは 選すぎです

● 飛節の改善は牛床の管理から

敷料と牛床の管理は飛節部分の損耗に大きく影響します。“2つのポイント”をみてみましょう！

✓ 敷料はありますか？

牛床には可能な限り敷料を入れ、クッション性を高めましょう。

敷料が不足すると、飛節が擦れ損耗につながります。地肌が見える前に敷料補充をしましょう。



写真2. 敷料が無い牛床で飛節が擦れている様子

✓ 牛床は硬くないですか？

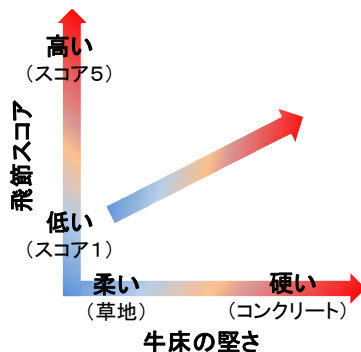


図3. 飛節スコアと牛床の堅さの関係

硬い牛床は飛節の損耗につながります。

また、凸凹な牛床は立っていても安定せずストレスとなり、生乳生産につながりません。

柔らかく寝てみたくなる牛床を提供しましょう。

● 蹄冠・飛節スコアが高まると淘汰率が上がる

✓ 蹄冠スコア4以上で淘汰率10.5%

飛節スコア4以上で淘汰率14.7%

表3. 蹄冠スコア4以上での淘汰状況 (単位: 頭、%)

	スコア	頭数	淘汰頭数	淘汰率
蹄冠	4以上	19	2	10.5
飛節	4以上	34	5	14.7

蹄冠スコア、飛節スコアが4以上になると淘汰される比率が高まります。特に、飛節が損耗すると淘汰率が高まる傾向にあります。

淘汰牛を少なくするためにも蹄冠、飛節の管理は大切なことです。

● 牛群内の蹄病は22%

✓ 蹄病の約68%はDD、32%は蹄底潰瘍・蹄葉炎

表4. 3農場における蹄病の状況 (単位: 頭、%)

農場	経産牛頭数	蹄病牛	蹄病の種類		蹄病牛割合
			DD	蹄底潰瘍 蹄葉炎	
A農場	145	44	33	11	30.3
B農場	126	10	0	10	7.9
C農場	93	27	22	5	29.0
合計 (割合)	364	81 (22.3)	55 (67.9)	26 (32.1)	22.3

(根室牛削蹄師会削蹄記録から)

農場間差はありますが、削蹄時には蹄病が22%見られます。

蹄病の67.9%はDDで、32.1%は蹄底潰瘍・蹄葉炎です。

DDは菌の伝染によるもので、蹄底潰瘍・蹄葉炎は飼料給与の問題からくる炎症です。

蔓延防止に向け、蹄浴や飼料給与・飼料内容を見直しましょう。